



## 22 世紀を生きる子どもたち

時代も平成から令和に変わり、「令和の時代」といった時代予想がテレビのニュース番組等で流れていたのを見られた方もたくさんおられると思います。その中で「平均寿命が100歳になる時代もそう遠くはなく、今小学生の多くは22世紀の時代を生きることになる」ということが耳に入ってきました。昭和生まれの私にとって、未来は21世紀であり、22世紀なんて想像もつかない時代でした。でも今の小学生が22世紀を生きていくことになると考えた時、明石市が掲げている「SDGs 未来安心都市・明石の創造～次なる100年のまちづくり～」の重みを改めて感じました。これからの100年に向けて、教育からのアプローチとしてコミュニティ・スクールがあり、新しい時代に求められる資質・能力を育てる仕組みづくりがコミュニティ・スクールの果たす役割だと考えます。子どもを核にしたまちづくりを進める明石市にとって、「いいまちにはいい学校がある、いい学校はいいまちにある」を合言葉に学校・地域・保護者が“熟議”をとおして「同じ目標」に向かって『地域づくり＝学校づくり』を進めるコミュニティ・スクールは、持続可能なまちづくりを支える人を育てることにつながります。そのために、学校・地域・保護者のみなさんによる“熟議”が始まり、『明石発“熟議”から始まる学びの仕組みづくり』のスタートの年になればと思っています。

また、学校でも22世紀を生きる子どもを育てる学校の仕組みを考える“熟議”が始まってほしいと願っています。今の仕組みで未来を生きる力を育てていけるか、未来を生きるために必要な力を育てていく学校の仕組み、授業の仕組み等を、“熟議”を通してデザインしていく時期にきていると思います。

## こんな取り組みがスタートをきりました

モデル校であった松が丘小学校で昨年に引き続き地域の将棋愛好家有志の皆さんが指導のもと「松っ子ども将棋教室」が5月13日月曜日にスタートしました。今年は60名を超える参加希望があり、A週・B週の2グループに分けての開催です。5月13日に開かれた第1回目では、4月に入学した1年生も地域のおじいちゃんに駒の動かし方を教えてもらいながら、真剣に将棋盤に向かっていました。指導に当たっていただく皆さんも、子どもとの将棋を楽しんで、子どもたちからパワーをもらっていただけたらと思っています。



また、5月17日金曜日には、昨年に引き続き松っ子レベルアップ教室が100名を超える子どもたちの参加のもとスタートを切りました。昨年は3・6年でスタートし、赤ペンボランティアさんの参加もあり5年生に拡大したレベルアップ教室ですが、今年は指導ボランティア、赤ペンボランティアさんの協力もあり、3・4・5・6年生を対象にスタートを切ることができました。また、今年は参加者各自が「各学年算数復習」・「算数難問」・「各学年漢字復習」のコースの中から自分で選択した問題集で学習することになり、用意された問題冊子を相手に楽しそうに取り組んでいました。6年生が1年生の冊子を選択し、「めっちゃわかる」と楽しそうに解いている姿を見ながら、こうした時間は必要なんだろうなと思いました。



(文責：CSコーディネーター 北本)